

深い愛情と努力があればこそ、シンデレラストーリーが生まれる。

今年のミッドランドスクエアクリスマスイベント、ゲストにお越しいただくのは、世界のトップダンサー・熊川哲也さん。シンデレラにまつわるエピソードやバレエにかける人生について、お話を伺いました。



Kバレエカンパニー芸術監督・バレエダンサー
熊川哲也さん
Tetsuya Kumakawa

10歳でバレエを始め、15歳で英国ロイヤル・バレエ学校に留学。翌年には英国代表として、ワガワ・バレエ学校250年祭に参加し、日本人で初めて栄光のマリンスキー劇場（ペテルブルグ）にて踊る。ローザンヌ国際バレエ・コンクールに出場し、日本人初のゴールド・メダルを受賞。同年、東洋人として初めて英国ロイヤル・バレエ団に入団し、ロイヤル史上最年少の17歳でソリストに、20歳には早くもプリンシパルに昇格した。25歳でロイヤル・バレエ団を退団、翌年Kバレエカンパニーを設立。以後、ダンサーとしてだけでなく、芸術監督・演出家・振付家としてバレエを総合的に追求している。

世界のバレエ界で堂々とトップに君臨する揺るぎない存在感

ひたむきな情熱と極限まで研ぎ澄ました感性が飛躍させる、その先の高み…。熊川哲也さんが率いるKバレエカンパニーのスタジオにお邪魔すると、プロフェッショナルダンサーたちの真摯な眼差しを受け、独特の空気に圧倒されます。そして、どこからか風がやわらかくそよんだかと思ったら、それが熊川さんの登場でした。軽やかな身のこなし、人を自然に惹きつける存在感。それは、クラシック・バレエ界の世界的トップダンサーとして、その地位を保持し続ける者だけに与えられた、表現者としてのオーラでした。

20代前半にして世界の頂点に登りつめた熊川さんは、英国ロイヤル・バレエ団を退団後、自らが芸術監督とプリンシパルを務めるKバレエカンパニーを設立。それまでの日本バレエ界にはなかった年間約50公演、毎年約10万人の観客動員という記録を保持し、世界的にも稀な活動実績を残しています。2012年1月には、東京・渋谷のBunkamuraオーチャードホールに芸術監督に就任し、劇場芸術監督という立場で新しい展開が始まりました。



新しいポジションのスタートに選んだ演目は「シンデレラ」

熊川さんが、劇場の芸術監督に就任し、最初に選んだ演目が「シンデレラ」でした。シンデレラに対する熊川さんの思いを聞いたところ「オーチャードホールのシンデレラは僕にとって節目の作品になりました。自分がダンサーとしてでは

なく、純粋に芸術監督として臨んだ舞台だったので、絶対に成功させてみせるという強い思いがあり、身も心もシンデレラでいっぱいになりましたね」と語ってくれました。公演前までは、シンデレラといえば、フランスの文学者シャルル・ペローが描いた童話の世界という解釈だったのだそうです。シンデレラは、バレエ界では、古典作品の中でも新しい部類に入る作品です。「伝統的なクラシック・バレエの世界ですつと踊ってきたので、シンデレラは馴染みが薄かったんですね」それでは何故、シンデレラをオーチャードホールの最初の公演に選んだのでしょうか。そこには、世界中の名舞台に立ってきた熊川さんならではの理由が秘められていました。「劇場には独特の神秘的な空気があります。ロンドンだと設立から400年から500年経っているホールもあって、そこであるような舞台芸術が創り出されたわけですが、なにか4次元の不思議な感覚が生まれることがあります。シンデレラでは、かぼちゃが馬車になり、4次元の世界を通じて王子様に会いに行くでしょう。舞台もシンデレラも4次元のロマンスなんです。僕がはじめて劇場の芸術監督を務める舞台だから、そんなキラキラした4次元の世界観を表現するなら、シンデレラがいいな、と思ったのです」

01 熊川哲也さんが選ぶミッドランドのクリスマスプレゼント

バカラのコレクターとして知られる熊川さん。「バカラのグラスは色々持っていますよ。自分のためだけではなく、友人の結婚祝いなど、贈り物としてもよく購入します」ヴィンテージ物が好きな熊川さんらしく、クラシックなカットが特徴のグラスをセレクトされました。



1. 「アルクールワイングラス」 ¥31,500
「中世や古典の雰囲気を醸し出しながらも、現代的なイメージも感じさせる素敵なデザインが気に入りました。」
2. 「エンパイアタンブラー」 ¥63,000
3. 「エンパイアワイングラス」 ¥67,200
「全体にほどこされている金彩が素晴らしい、中に注ぐ飲み物によって、味わいだけでなく視覚的にも色々な魅力が楽しめます。」

「バカラ 1F TEL.052-533-8520」



クラシック・バレエへの想いを追求し続ける熊川さんのプライベートは、意外にも静かな過ごし方。「休みの日はあまりアクティブじゃないですね。愛犬のシユナウザーと遊んだり、ドライブしたり、掃除したりね」自らの頭脳と身体を無に解放するのが熊川さん流のお休みの過ごし方なのでしょうか。静と動が棲み分けされているからこそ、バレエ芸術の創造を極めることができるのかもしれない。そこで気になるのは、熊川さんのクリスマスのごし方です。バレエ界にとってクリスマスは「くるみ割り人形」の季節。世界中の劇場で上演されています。熊川さんは、その公演で忙しく過ごすのがクリスマスの習慣になっているとか。「だからクリスマスというし、毎年、公演が終わった後にお寿司屋あたりでひと思っていることが多いですね。周りはカッパルだらけですけど(笑)」

「僕のクリスマスの印象的な思い出は15歳で英国に渡った最初の冬の風景。クリスマス休暇で学校が休みに入り、街から人がいなくなると、お店も休みになり、行く所のない僕はとても寂しい気持ちに

クリスマスは、
本当に大切な人との絆を
確かめ合う行事

「なったのを覚えています」そこで友人が実家に連れていってくれ、友人の家族とアットホームなクリスマスを過ごしたことがとても印象的だったそう。「クリスマスは大切な人との絆を確かめ合う、大事なイベントなんだと実感しました」バレエのために生きる熊川さんにとって、大切な絆を確かめ合う相手は、やはりバレエなのかもしれません。

熊川さんの比類ない圧倒的なスター性は、ダンサーとしての舞台と芸術監督、カンパニーの運営と、バレエ芸術の総合

「自分のためのバレエ」から
「バレエのための自分」へ

的な追求によって功績を残し続けています。英国ロイヤル・バレエ団で栄光を極め、次のステージへと歩みを進めて頂点に立つ姿からは、成功者を意味する「シンデレラストーリー」が思い浮かびますが、その言葉に熊川さんは首を傾げます。「日本で言うシンデレラストーリーは、運良く成功したみたいないイメージがあって、少し軽過ぎるかなと思います。シンデレラは一夜にして王子様に巡り会えて幸せになったように思われているけど、そうじゃない。継母や義姉妹にいじめられ、いたぶられても、愛情をもって周りの人に接する人間だったからこそ、仙女が現れてシンデレラを魔法で救ってくれます。素晴らしい人間だったから、



熊川哲也さんが、ミッドランドの
クリスマスイベントに出演します。

2012年ミッドランドのクリスマスは、11月9日(金)、熊川哲也さんのクリスマスツリー点灯式から始まります。トークショーでシンデレラストーリーにこめられた想いを熊川さんに語っていただくほか、熊川さん率いるKバレエカンパニーのダンサーが、ロマンティックでエレガントなダンスパフォーマンスを繰り広げます。



幸せになれたのだと思います」自分が目指す道のためには、いつも努力しなげなければいけない。そしてその努力がいつかむくわれる時が来て、そうなるのはじめてシンデレラストーリーなのだ、と熊川さんは語ります。「僕だってそう。バレエのことなど何もわからないまま、ただ無心で、もっと高く跳ぼう、もっと早く回ろうと自分で技術を追求し続けた。ヨーロッパの門戸を開いたことは確かにひとつの成功だったかもしれないけど、今度日本でもバレエ芸術を根付かせることに懸命になっている。今は、その努力の最中で、それが僕に与えられた使命だと思っています」バレエに人生を捧げている熊川さんの言葉は重みがあります。約30年間のバレエ人生で、バレエに対する考え方があったのかを聞いてみると「自分の存在や価値を分かってもらうためにバレエに力を注いでいたのが若い頃。そして今は、バレエの先人たちが

が僕を選んでくれて、現代で踊らせてくれている、そう感じています」自分のためのバレエから、バレエのための自分へと、存在意義が変化してきていると言います。偉大な先人たちが築き上げた歴史ある芸術文化を受け継ぎ、さらに次の時代へと繋げていくこと、それが熊川さんに運命づけられた使命なのだ。

「僕が理想とするバレエ芸術は古典と共同にあると思っています」バレエ団のレパートリーは古典全幕作品を中心に、独自の熊川版として次々に発表を重ねています。「古典に没頭しているからか、今は本も古書が好き、車もオールドヴィンテージにしか興味がないですね」古い舞台芸術の本を読みながら、頭の中で先人たちの会話を楽しむ。愛車フェラーリ・デイトナ206GT1968年型を愛おしむようにドライブし、車を創った男たちと車を通じて対話する。それが熊川さんの心を満たすひとときなのだそう。



©小川峻毅



1



2

02

Kバレエカンパニー
バレエ公演
告知

1.KバレエカンパニーWinter2012
「くるみ割り人形」
2012年
12月21日(金)~12月26日(水)
赤坂ACTシアター

2.KバレエカンパニーSpring2013
「シンデレラ」
2013年
3月6日(水)~3月10日(日)
Bunkamuraオーチャードホール

TETSUYA KUMAKAWA
K-BALLET COMPANY
<http://k-ballet.co.jp/company/>

